



神奈川県東ロータリークラブ

KANAGAWA EAST ROTARY CLUB

DISTRICT 2590/CHARTERED MAY 29-1976/WEEKLY BULLETIN

2011-2012年度 R I 会長 カルヤン・パネルジー



こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

2011-2012年度 第2590地区ガバナー 上澤摩壽雄

- | | | | |
|-----------|--------|-----------|---------|
| ● 会長 | 加藤 仁 昭 | ● 会長エレクト | 飯田 泰 之 |
| ● 副会長 | 伊東 英 紀 | ● 副会長 | 山本 登 |
| ● 幹事 | 天野 公 史 | ● 副幹事 | 西山 潔 |
| ● 会計 | 朝日 達 夫 | ● 副会計 | 田口 健太郎 |
| ● S A A | 山本 芳 弘 | ● 副 S A A | 吉田 隆 男 |
| ● 副 S A A | 横 溝 亘 | ● クラブ会報 | 小 山 市 康 |

●クラブテーマ「感謝・継承・進化」●



- 事務局 ● ホテルキャメロットジャパン内 〒220-0004 横浜市西区北幸 1-11-3
TEL : 045-314-3900 FAX : 045-314-3555
- 例会日 ● 毎週金曜日 0 : 30 ~ 1 : 30 PM (第5金曜日 6 : 00 PM)
- 例会場 ● ホテルキャメロットジャパン ●創立記念日 ● 昭和 51 年 5 月 29 日
- URL ● <http://www.kanagawahigashi.com/>
- E-mail ● kerc@beach.ocn.ne.jp

2011-2012年度 第15号週報 No. 1714 2011年(平成23年) 10月21日 第1714回例会記録 10月28日発行

優良職場訪問、及び夜間例会

司 会 天野 公史 幹事

点 鐘 加藤 仁昭 会長

斉 唱 「それでこそロータリー」

ゲスト紹介 佐々木大裕 様 (ゲストスピーカー)
藤田 敦彦 様 (スピーカー同行者)

会長報告 加藤 仁昭 会長

- ・10月度定例理事会報告
- ・東日本大震災チャリティーゴルフ大会の入賞賞品が届いておりますので贈呈致します。



80位 田中龍太郎会員、N P 賞 赤堀和人会員

本日〈10月28日〉のプログラム

- ◆ 齊 唱 「手に手つないで」
- ◆ 献 立 幕の内弁当
- ◆ 卓 話 イニシエーションスピーチ

白井 康夫 会員

出席報告

会員総数	56名	(41+15)名	
出席会員数	39名	(28+11)名	
出席率	71.74%		
ゲスト	2名	ビジター	0名
前回補正後	92.59%	前々回補正後	94.34%

スマイルボックス 山本 芳弘 SAA

加藤仁昭君 ①本日の職場訪問、植田委員長ご苦労様でした。引き続き自衛隊の藤田様、佐々木様、本日の卓話、よろしくお願ひします。②昨日のゴルフコンペ優勝の白鳥さん、おめでとう。幹事の田中様、お世話様。

月山 勇君 先日の蓼科物語ツアー参加の山富さん、山本さん、お疲れ様でした。青柳さんには色々お世話になりました。

天野公史君 植田職業奉仕委員長、そして本日参加の皆様お疲れ様でした。藤田所長、佐々木隊長、本日はお忙しいところ、ありがとうございました。

渡邊 淳君 先日の第2・第3テーブルミーティング、大勢のご出席、ありがとうございます。御礼申し上げます。

伊澤政宏君 本日、職場訪問参加の皆様、ご苦労様でした。

植田清司君 本日の優良職場訪問、朝霞駐屯地への参加の皆様、大変お疲れ様でした。

長井 章君 昨日のゴルフコンペ参加の皆様、お世話になりました。ギックリ腰で先に失礼致しました。

田中龍太郎君 昨日のゴルフコンペに参加の皆様、お疲れ様でした。次回は12/21(水)です。幹事は白鳥さん、川邊さんです。大勢の皆様のご参加をお願い致します。

脇田いすゞさん 職場訪問出席の皆様、お疲れ様でした。10億の戦車、見てきました。

森永 健君 本日、優良職場訪問に行ってきました。ありがとうございました。

白鳥厚夫君 昨日は、皆様のご協力のもと優勝させて頂き、ありがとうございました。バンザイ！

コーヒー飲み会の皆さん 先ほど1階でコーヒーを飲んだ会員たちの代金のお釣り分、ニコニコへ入れます。

山本芳弘君 本日、職場訪問参加の方々、お疲れ様でした。

卓話

「東日本大震災における自衛隊の活動と今後の防災のあり方」

自衛隊神奈川地方協力本部 川崎地区隊長兼川崎出張所長
佐々木大裕 様
(紹介者 天野 公史 会員)



皆さん、こんにちは。私は防衛省神奈川地方協力本部川崎地区隊長兼川崎出張所長の佐々木と申します。本日は皆さんに災害講話と致しまして「東日本大震災における自衛隊の活動」と「災害から身を守るために一考察」をお話ししたいと思います。

なお「災害から身を守るために一考察」は全くの私見でありますので参考程度に聞いて頂ければと思います。

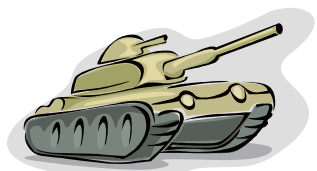
東日本大震災(1945年以降最大)

死者行方不明者

約2万人(警察庁データ)

部隊展開の状況を説明します。11日の発災後、第3種非常呼集により登庁、東北の所在部隊を派遣し併せて全国から増援を得て最大10万人超の支援体制に移行しました。その間、14日に統合任務部隊を編成し、一元的な指揮の態勢に移行しております。

主要な活動ですが、当初は、人命救助、物資輸送、給水・給食、医療支援、そして原発対応等を実施しました。



次に私が派遣されました石巻市北方の女川町と長面浦地区の自衛隊の活動、特に瓦礫除去とご遺体の搜索・収容活動についてお話しします。隊員はご遺体を発見すると役場担当者と呼び一同黙祷・合掌ご遺体を収容袋に入れさせて頂き、役場担当者が発見カードを入れて搬送致します。被害の概況は、津波によって女川町は瓦礫化し、長面浦地区は北上川流域が水没致しました。女川町は、約20mを超える津波が襲来し、町全域を瓦礫化させました。最終的に津波が止まったのは山の山脚部であり、高台に登った人を除いてはほとんどの方が犠牲になりました。津波は町を文字通り灰燼化しました。これは道路啓開が終わった現場です。流された電車も見えません。あたりは一面に魚の腐敗臭が漂い、打ち上げられた砂が常時舞い上がっている状態です。

現地における会議は毎日9:00と18:00に対策本部である女川町体育館に町役場関係者・自衛隊・警察・消防・民代表が集合し活動進捗・問題点・対策・住民ニーズ等を発表し、相互に連携しながらの有機的な活動に努めました。

自衛隊は自己完結能力を保持する唯一の組織として瓦礫除去、ご遺体搜索収容、食事・入浴支援等の多岐に亘る業務を実施しております。この中で瓦礫除去とご遺体搜索収容業務は所要が大きく可動人員の約8割を投入して実施しております。



また同時並行的に人力による瓦礫除去も実施しております。青カッパの人は女川町役場の担当の方です。画面には見えませんが後方に家の持ち主の方が待機していらっしゃいます。瓦礫除去が終わると隊員は展開してご遺体を搜索を致します。例え困難な現場であっても漏れなく搜索致します。

この度の震災の犠牲者は万人単位であり、まさしく自衛隊にとってもこれだけ多数の方々の遺体収容は創隊以来初めての経験でありました。私自身も御巣鷹山への日航機墜落事故がこれまでのMAXであり、今度の震災の犠牲者はその経験値をはるかに上回るものでした。隊員の中にはご遺体を初めて見る若い隊員もおり、正直言って任務遂行に一抹の不安を抱いていたのも事実です。

しかし隊員は全員が使命感に燃え整齊と任務を遂行しておりました。このモチベーションの基礎となったものは日頃からの訓練や教育の成果もありますが、一番大きかったのは地元の方々の頑張る姿と「ありがとう」と言って頂いたことに尽きると考えております。

皆さんは、この度の東日本大震災をどう捉えていらっしゃいます

か?もう当然大震災はないだろう。という捉え方も確かにあると思いますが私自身は今後の関東・東海での大震災を予測し、東日本大震災の教訓等を反映してしっかりと備えることが重要と考えております。その理由として、今回の震災は太平洋プレートに起因していますが、関東・東海地震はフィリピン海プレートとの結びつきが強くこのエネルギーは未だ継続的に蓄積されているからです。また日本には各所に活断層が点在し、これが作用する危険性も指摘されています。最近では三浦半島の活断層の危険性がテレビで報道されております。従って、私は今後の大震災に対する考え方は最悪の事態が発生することを前提に考察すべきであり、~だろう等の思いこみは危険ではないかと考えております。この為の対処例として4項目、

- ①災害形態の予想と物心両面の準備
- ②要援護者の把握と支援体制の確立
- ③災害対処マニュアル等の普及
- ④防災訓練への参加及び教訓の反映

が重要ではないかと思えます。

まず災害形態の予想と物心両面の準備についてです。大震災発生に伴う予想災害形態はライフラインの停止に加えて建物倒壊・火災・液状化そして津波と気象条件による竜巻の発生が予想されます。先の関東大震災では、竜巻が発生し日比谷公園に避難していた人々を家財道具ごと上空に巻き上げ多くの犠牲者が発生しております。ライフラインの停止を見越して各戸(各人)ごとに画面にあるような非常用物品を備えつけておきたいものです。特に携帯電話用の予備バッテリー等は準備しておくくと便利と考えます。各戸(各人)ごとの心の準備として、先ず身の安全を確保することと火災予防処置をすることは必要最小限必要と考えます。この2つの事項は基礎動作として、いざ発災時に無意識に行えるようになっていることが重要です。また、倒れやすいものには近づかないことが重要であり、出来れば転倒防止の処置が望ましいと考えます。

2番目に要援護者の把握と支援体制の確立についてです。最悪の場合を考えますと避難には制約が加わり元気な人でも困難が伴います。またこれに津波警報等が加わりますと至短時間に高所避難が必要になる等、避難に複雑性が加味されることとなります。従って、避難には、身体の不自由な方等の要援護者への支援や助け合いが必要と思えます。すなわち要援護者をいざという時に支援出来るふれあい・支援ネットワークの構築です。確かに個人情報の制約はありますが、発災時に要援護者に手を差し伸べることによって逃げ遅れ



で犠牲になる方の減少が期待出来ることを考えると、人命救助を優先すべきでは?と考えます。

3番目に災害対処マニュアル等の普及についてです。各行政担当は、知恵を絞って各種のマニュアルを作成されていると思います。ただ、これを普及啓蒙しなければ宝の持ち腐れであり、マニュアルを理解せずに災害対処訓練に参加しても効果が半減してしまうと考えます。従って、会合や寄り合いの機会等、ありとあらゆる機会を利用してこれを普及啓蒙する必要があると思います。

4番目に防災訓練への参加及び教訓の反映です。防災訓練には数多くの方が是非参加して頂きたいと思っております。自衛隊も毎年参加させて頂いております。訓練に参加することによって表にありますような教訓事項(うまく出来なかったこと)と反映事項(是正事項)を案出出来、皆さんの災害時実行行動の質が格段に向上するからです。教訓事項は頭で考えるものではありません。実際に訓練に参加し体験した上で初めて解るものです。

最後になりますが、この度の東日本大震災で犠牲となられた方々のご冥福を心からお祈り申し上げますとともに、本日参加された方々の今後のご多幸とご健勝を心からお祈り申し上げ、本講話を終わります。

職場訪問 陸上自衛隊朝霞駐屯地見学



懇親会・会食



次回《11月4日》の卓話予定
テーマ「拉致の現状と今後の展望」

救う会 事務局長 平田隆太郎 様
(紹介者 田口健太郎 会員)